



地域協働学校（コミュニティ・スクール）

保護者・地域とともに 歴史を刻む LAST YEAR

共創

ふじみ野市立東台小学校
学校だより 第6号
令和6年8月26日

2学期が始まりました！

子どもたちの元気な笑顔が学校に戻ってきました。朝の登校の様子から、暑さに負けず、楽しい夏休みだったことが伝わってきました。お陰様で、大きな事件や事故もなく、安全に学校に送り出してくださり、ありがとうございます。

今夏は、17日間に渡るパリオリンピックに夢中になり、寝不足が続いたご家庭もあったことでしょう。どの競技にも熱いドラマがあり、限界に挑む真剣な眼差しや勝敗に捉われず相手を称える姿など、今でも感動が蘇ってきます。

日本は、金20個・銀12個・銅13個の計45個と、海外開催のオリンピックでは、過去最多のメダル獲得数だったそうです。多くの競技で、世界と肩を並べられるようになった日本の躍進は、素晴らしいものです。では、日本が強くなってきた秘密はどこにあるのでしょうか。いろいろな秘密がありそうですね。また、日本と同じように活躍が目立った国があります。どの国でしょう。例えば、オーストラリアは、金18個、銀19個、銅16個の計53個のメダルを獲得しました。総数で見ると、日本と大差ありません。が、オーストラリアの人口は約2660万人で、日本の約5分の1ほどです。このように人口の少ない国で、これだけのメダルが獲得できたのはなぜでしょう。蛇足ですが、今大会で多くメダルを獲得した国は、アメリカ合衆国と中国です。2つの国に共通すること、つまり、人口が多ければ、優れた選手が輩出される確率も高くなるのか？……など、こうしてオリンピック1つをとってみても、疑問や知りたいことが次々と出てきます。

出てきた自分の課題をじっくり調べて解決し、分かった内容をクラスの友達と伝え合うことができれば、とても面白い授業になりそうですね。

今、予測困難な社会を子どもたちが生き抜くために、こうした課題解決の力を高めることが求められています。

8月20日に行われた小中連携の夏季研修会では、大井中学校区の90名を超える先生方が本校のランチルームに集まり、課題解決の力を高めるための『探求学習』の在り方を指導者の先生から学びました。

「授業の中で、子どもに決定権を委ね、内発的動機づけを高めることが学力向上につながる」「学習の価値づけが大切」など、授業に役立つエッセンスをたっぷり吸収することができ、どの学年も充実した2学期を迎えられそうです。

今学期は、修学旅行や校外学習、運動会や音楽会等、大きな合同行事も続きます。引き続き、お子様が楽しく学校生活を過ごせるよう、温かいご支援・ご協力をお願いいたします。